

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(SVB破綻のマーケットへの影響)

2023/3/13

りそなホールディングス 市場企画部

- 10日SVB銀行が経営破綻。同社はリテール預金の比率が低い特殊な構造であり、先週末の米大手銀への波及は限定的であった
- 米金融当局は週初、預金保険保護の姿勢を強めており、金融市場も落ち着きを取り戻しつつあるが、議会对応等の不透明感が残る
- FRBの0.50%利上げの可能性は大きく低下し、ドル円は利上げ再加速が意識され始めた2月上旬（130円）程度まで下落余地がある

OSVB銀行経営破綻

- 米西海岸のスタートアップ向け融資の**大手銀行シリコンバレー銀行(SVB)が10日に経営破綻**し、米連邦預金保険公社(FDIC)の管理下に入った。
- 破綻直前の同銀行のムーディーズ格付はBBBであり、投資適格級の銀行の突然の破綻となった。同社はリテール預金比率が8%と低く、9割近い預金が保険保護の対象外。預金者の不安をあまり、取付に近い状況となった。
- 同社は預貸率が43%と低く、国債・MBSで市場運用しており、金利上昇の影響を直接的に受けやすい構造。預証率も70%弱と運用に極端な偏りが見られた。

○破綻影響の波及

- リーマンショックの際トリガーとなったサブプライム証券のような複雑な商品ではなく米国債やMBSのようなポピュラーな商品が対象。リスクの所在が分かりやすい一方で、米国の急ピッチな利上げが進行する中で、どこの金融機関でも同様の問題を抱えていると言える
- 大手米銀の資産ポートフォリオは預貸率が高く、預証率は低いことから、SVB銀行とは構造が違う。先週末のCDS指数は悪化したものの昨年10月のピーク比70%程度の水準であり、現時点では影響は限定的となっている

○今後の影響

- 金融システム不安は、消費者心理面で実体経済に悪影響となるリスク。
- 米国当局は預金保護の姿勢を鮮明としており、週初の東京マーケットは落ち着きを取り戻しつつある。しかし、議会の対応等に不透明感残る、
- FRBはインフレ警戒感の高まりから利上げは継続すると見るが、過去に例のない急速かつ大幅な利上げが背景にひとつであり、**利上げ幅の再加速（3月に0.50%利上げ）の可能性は大きく後退**しただろう。ドル円は利上げ再加速が意識され始めた2月上旬の水準（130円）程度への下落余地がある。

○見ておくべきポイント

- 預金全額保護の実現性（金融当局と議会との交渉）
- FRBは利上げペースと天井をどのように調整するか？
- 米国金融機関の破綻がさらに広がるか？

ご参考①米国金融機関破綻

破綻	銀行	預金量	順位	要因
3/9	シルバーゲート銀行	63億ドル	-	暗号資産
3/10	シリコンバレー銀行	1,750億ドル	16位	有価証券評価損
3/12	シグネチャー銀行	886億ドル	29位	暗号資産・取付

ご参考②米国政府対応

当局対応		条件	備考
預金全額保護	-	総額250億ドル	全米の保険対象外預金をカバー可能
BTFP (バンク・ターム・ファンディング・プログラム)	新設	最長1年	有価証券の(額面価格での)現金化が可能
連銀窓口貸出制度	緩和	最長90日	FRBによる直接融資

ご参考③過去のショック局面

当局対応	株式市場	金融委政策
ITバブル	ナスダック総合▲72% 日経平均▲54% (2年7か月)	FF金利 6.5% ⇒ 1.75%
リーマンショック	S & P500 ▲57% 日経平均▲61% (1年5か月)	FF金利 5.25% ⇒ 0.25%

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。